

政策解説

自衛隊員一人ひとりの命を守るため

自衛隊員救急救命法案（第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案）提出

南スーダンでのPKO活動に、駆けつけ警護が加わった。各国と比べ、大きく劣る自衛隊の救急救命体制。民進党は自衛隊員の命を守るために救急救命法案を提出した。法案作成に關わった大野元裕参院議員に話を聞いた。

この法案が11月15日に衆院に提出された同日に、政府は、昨年成立した安保法制に基づき、新たに任務遂行型の武器使用権限を付与した駆けつけ警護を南スーダンで行うと閣議決定しました。

われわれは、自衛隊の救急救命体制が他国に比べ相当劣っているという問題意識から、まずは、自衛隊員の命を救う法律を優先させるべきと考え、この法案を提出しました。

自衛隊の現場が抱える問題は4つあります。第1に装備です。隊員が持つ携行救急品、部隊が保有する救急品があります。が、数や質の面で非常に

この「メディック」は配置されていません。米軍では、重症の負傷者は30分以内に90%が死亡するとされています。米軍と違い、日本の応急治療では一人ひとりの対応に時間がかかるため、多くの負傷者がいっぺんに出た場合、救命体制が組みきれず、救急救命体制が安全に出来るかがとても大事です。これが出来ないという判断し、私は防衛政務官の時にシリアのゴラン高原から自衛隊を撤退させる決断をしました。自衛隊、自衛官は、法律に則り、政治家の命令に従って行動します。彼らに対する責任ある決断を下せていないという事は医療以前の問題として、私はあると思います。

自衛隊員が国内で携行している衛生品ポーチには、包帯と止血帯の2種類しか入っていません。PKOで国外に行く隊員は8種類程度入った応急セットを持っていくようです。日本で治安出動があれば、同じ応急セットを持たせるといって、問題が訓練が出来ていないことです。

現在、南スーダンをはじめ世界中に出回っているAK47という自動小銃に使われている7・62ミリ弾で撃たれた場合、弾

が出た時に、その場で対応する措置がほとんど確立されていない点です。米軍は前線では応急措置のみで、後方で治療をする時間を稼ごうとします。しかし日本では、第一線（※）トリアージを伴う応急治療を行うとされています。米軍と違い、日本の応急治療では一人ひとりの対応に時間がかかるため、多くの負傷者がいっぺんに出た場合、救命体制が組みきれず、救急救命体制が安全に出来るかがとても大事です。これが出来ないという判断し、私は防衛政務官の時にシリアのゴラン高原から自衛隊を撤退させる決断をしました。自衛隊、自衛官は、法律に則り、政治家の命令に従って行動します。彼らに対する責任ある決断を下せていないという事は医療以前の問題として、私はあると思います。

この「メディック」は配置されていません。米軍では、重症の負傷者は30分以内に90%が死亡するとされています。米軍と違い、日本の応急治療では一人ひとりの対応に時間がかかるため、多くの負傷者がいっぺんに出た場合、救命体制が組みきれず、救急救命体制が安全に出来るかがとても大事です。これが出来ないという判断し、私は防衛政務官の時にシリアのゴラン高原から自衛隊を撤退させる決断をしました。自衛隊、自衛官は、法律に則り、政治家の命令に従って行動します。彼らに対する責任ある決断を下せていないという事は医療以前の問題として、私はあると思います。

3つ目は部隊の展開です。自衛隊には、医官（医師）、看護師、准看護師、救命救急士で「メディック」と言われる医療経験者がいますが、この人数が足りません。さらに、第一線の後方に負傷者の収容所、その後方に大規模な収容所、病院がありますが、現状では第一線から収容所までの間に

自衛隊員が国内で携行している衛生品ポーチには、包帯と止血帯の2種類しか入っていません。PKOで国外に行く隊員は8種類程度入った応急セットを持っていくようです。日本で治安出動があれば、同じ応急セットを持たせるといって、問題が訓練が出来ていないことです。

現在、南スーダンをはじめ世界中に出回っているAK47という自動小銃に使われている7・62ミリ弾で撃たれた場合、弾

セットがありません。訓練なしで弾が飛び交っている中、どうやって自分の命を救うのか。日頃の訓練とともに十分な量を確保し、実際に現場で使えるようにすることがとても難しいことです。

南スーダンについては、このような医療措置の充実も必要ですが、それ以前の問題として、意義のある活動が安全に出来るかがとても大事です。これが出来ないという判断し、私は防衛政務官の時にシリアのゴラン高原から自衛隊を撤退させる決断をしました。自衛隊、自衛官は、法律に則り、政治家の命令に従って行動します。彼らに対する責任ある決断を下せていないという事は医療以前の問題として、私はあると思います。

「第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案」（自衛隊員救急救命法案）を民進・自由両党が11月15日、衆院に共同提出しました。自衛隊員の命を守る救急救命体制に焦点を当てた画期的な法律案です。

第一線、そして防衛力整備を担当する防衛省中核部署で勤務した経験から、私は衛生医療分野がなござりにされていると感じていました。それは、決して防衛省・自衛隊が隊員の命を軽視していたという事ではありません。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。

自衛隊が装備している自動小銃では5・56ミリ弾を使用しています。対して南スーダンでは7・62ミリと12・7ミリの武器が主流です。南スーダンではこういった武器が軍や反政府勢力だけで

安定していると言いたいのであれば、それをどうとん証明しなければいけません。人の命がかかっているのですから。

この法案は、与野党と政局の話ではありません。日本国内でもテロなどが起る可能性もありません。安倍総理の言葉を借りれば、日本の安全保障環境は変わっていないわけですから、もし自衛隊

「第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案」（自衛隊員救急救命法案）を民進・自由両党が11月15日、衆院に共同提出しました。自衛隊員の命を守る救急救命体制に焦点を当てた画期的な法律案です。

第一線、そして防衛力整備を担当する防衛省中核部署で勤務した経験から、私は衛生医療分野がなござりにされていると感じていました。それは、決して防衛省・自衛隊が隊員の命を軽視していたという事ではありません。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。

自衛隊が装備している自動小銃では5・56ミリ弾を使用しています。対して南スーダンでは7・62ミリと12・7ミリの武器が主流です。南スーダンではこういった武器が軍や反政府勢力だけで

はなく、部族勢力や民間に出回っています。そんな相手の中に入って威嚇射撃をするということには果たして何を意味するのか。物理的、能力的に自衛隊がそれに対処できると過信することは、政治の甘えだと思えます。

この法案は、与野党と政局の話ではありません。日本国内でもテロなどが起る可能性もありません。安倍総理の言葉を借りれば、日本の安全保障環境は変わっていないわけですから、もし自衛隊

「第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案」（自衛隊員救急救命法案）を民進・自由両党が11月15日、衆院に共同提出しました。自衛隊員の命を守る救急救命体制に焦点を当てた画期的な法律案です。

第一線、そして防衛力整備を担当する防衛省中核部署で勤務した経験から、私は衛生医療分野がなござりにされていると感じていました。それは、決して防衛省・自衛隊が隊員の命を軽視していたという事ではありません。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。

自衛隊が装備している自動小銃では5・56ミリ弾を使用しています。対して南スーダンでは7・62ミリと12・7ミリの武器が主流です。南スーダンではこういった武器が軍や反政府勢力だけで



防衛副大臣 大野元裕 (おおの もとひろ) 参院議員

自衛隊の現場が抱える問題は4つあります。第1に装備です。隊員が持つ携行救急品、部隊が保有する救急品があります。が、数や質の面で非常に

この「メディック」は配置されていません。米軍では、重症の負傷者は30分以内に90%が死亡するとされています。米軍と違い、日本の応急治療では一人ひとりの対応に時間がかかるため、多くの負傷者がいっぺんに出た場合、救命体制が組みきれず、救急救命体制が安全に出来るかがとても大事です。これが出来ないという判断し、私は防衛政務官の時にシリアのゴラン高原から自衛隊を撤退させる決断をしました。自衛隊、自衛官は、法律に則り、政治家の命令に従って行動します。彼らに対する責任ある決断を下せていないという事は医療以前の問題として、私はあると思います。

「第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案」（自衛隊員救急救命法案）を民進・自由両党が11月15日、衆院に共同提出しました。自衛隊員の命を守る救急救命体制に焦点を当てた画期的な法律案です。

第一線、そして防衛力整備を担当する防衛省中核部署で勤務した経験から、私は衛生医療分野がなござりにされていると感じていました。それは、決して防衛省・自衛隊が隊員の命を軽視していたという事ではありません。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を整備する必要がある。

冷戦時代のパラダイムから抜け、最善の体制を

民進党青森県第3区総支部長 工藤武司 (くどう たけし)



防衛大学校、防衛省陸上幕僚監部、防衛省防衛研究所、防衛省防衛政策課、防衛省防衛法制課、防衛省防衛法制課、防衛省防衛法制課

「第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案」（自衛隊員救急救命法案）を民進・自由両党が11月15日、衆院に共同提出しました。自衛隊員の命を守る救急救命体制に焦点を当てた画期的な法律案です。

「第一線救急救命処置体制の整備に関する法律案」（自衛隊員救急救命法案）を民進・自由両党が11月15日、衆院に共同提出しました。自衛隊員の命を守る救急救命体制に焦点を当てた画期的な法律案です。

(※) 手当の緊急度に従って優先順位をつけること